

令和5年度 学校評価

学校番号（中15） 長崎市立深堀中学校

1 教育目標

共に学び、高め合う、希望あふれる生徒の育成
 ・学ぶ意欲 ・思いやる心 ・健やかな心身

◎目指す生徒像

①自ら考え行動する生徒 ②基本的な生活習慣と学習規律を身につけた生徒 ③困難や厳しさに立ち向かう生徒

◎目指す学校像

①笑顔あふれる学校 ②一人一人が輝く学校 ③家庭・地域との連携を深め、安心と安全を保障できる学校

◎目指す教師像

①生徒一人一人を大切にできる教師 ②常に研鑽し、向上する教師 ③生徒・保護者との信頼関係を構築できる教師

2 経営スローガン

・「凡事徹底」 ～当たり前前かが、当たり前前のできる学校～
 ・「chance・challenge・change」 ～一人一人が、大切にされる学校～

3 重点努力目標

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ①新型コロナウイルス感染症への対応 | ② 確かな学力の保障 |
| ③特別支援教育の充実 | ④ 生きる力の定着 |
| ⑤健やかな身体と安心・安全な学習環境の保障 | ⑥ 信頼される学校づくりの推進 |
| ⑦小学校及び家庭・地域との連携 | ⑧ 働き方改革と服務規律の遵守 |

4

領域	項目	肯定的割合（4段階評価 3と4） %	生徒	保護者	職員	分析
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	92	87	100	学校の雰囲気については、生徒は高いものの職員はもう少し高い目標をめざしている。業務の改善は、ICT関係のソフトや機器の導入による負担もあり低い評価になったと思われる。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	91	81	88	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している	/	/	75	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している	/	/	69	
心の教育	生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	95	91	60	生徒と保護者の評価は、おおむねどの項目においても高い評価を得た。ただ、ルールやマナーについては、7月の調査からは改善しつつも、職員は、さらに改善の必要性を感じている。また、あいさつについては、まだまだ三者とも不十分さを感じており、生徒会の取組を充実させるとともに指導や保護者等への発信（学校だより、学級通信、生徒会だよりの配付や配信）の場を広げていく。
		生徒は、自分から、あいさつをしている。	88	67	56	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93	88	81	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	84	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	94	93	75	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	92	89	94	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	92	88	94	
学級安心度	生徒は学級の中で安心して生活することができていると感じている。	86	82	75		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	91	99	81	「家庭学習の習慣化」については、研修課題にして取り組んできたこともあり、生徒・保護者は7月に比べると向上したが、調査結果まだまだ厳しい状況である。クロームブックの有効活用やキュービナの家庭での活用を含め、来年度に向けて、新たな策を講じ、学力向上を図っていく。また、2月、3月重点的にキャリア教育の推進を図っていく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	89	74	94	
		生徒は、家庭での自主学習の習慣が身についている。	78	63	31	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	76	84	94	
		長崎のまちや自分の住んでいる町が好きである	87	/	/	
学習意欲	生徒は、まじめに授業・学習に取り組んでいる。	92	84	75		

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	94	99	100	健康教育については、健康診断のときの指導及び情報発信、保健だより・掲示物等とおとして良く取り組んでいることがわかる。食育(好き嫌いによる残食)は、給食指導を含め本校の大きな課題である。学校三医、栄養教諭とも相談をしながら指導を充実させる。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	84	73	50	
		体力向上に努めている	77	81	75	
	食育	食に関する教育活動を行っている	71	83	44	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	95	96	100	多くの項目で肯定的な評価であり、今後も油断せずに取り組んでいきたい。7月比で情報提供も大きく向上している。地域との連携については、様々な地域行事が再提案され、2学期以降、生徒及び職員も様々な地域行事に参加してきた。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	89	96	94	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	75	97	88	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している	/	/	88	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	90	78	88	安全推進委員会や毎月の安全点検を活用し、さらなる教育環境面での充実を図っていく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる	/	/	75	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

教育目標への評価は、三者ともに学校の雰囲気の良い項目が高い。学級・学年の取組や配慮と職員間のコミュニケーションが取れていることが数値を高めている。また、明るく楽しい雰囲気である生徒は高いものの保護者はやや低い。学校行事やコミュニケーションを高める活動など様々な取組を通して、まだまだ積極的に取り組む必要がある。あいさつについては、本校今年度の大きな課題である。7月の調査より向上しているものの、三者の数値が違うのは、判断基準の相違によると思われる。根気強い指導とともに生徒会の主体的な活動を継続してきており、講演会等を実施することで、気持ちよく笑顔であいさつができる生徒を育ててきた。また、基本的な生活習慣についても、同様のことがいえる。中でも、食育(食の大切さ)に重点を置き、指導や取組を実践してきたが、学年によっては、好き嫌いによる残食も多く、保護者を巻き込んだ計画的、組織的な取組が必要である。いじめ防止、人権教育、平和教育、学校安心度も非常に高いものの、100%を目指したい。アセスやSET等の集団・個人調査の結果を活用し、低い評価をした生徒へのサポートができればと考えている。本校のもう一つの大きな課題が家庭学習への取組である。三者とも低い数値であるとともに生徒の割合が高いのは、生徒への浸透が不十分であるともいえる。特に、特定の学年や教科で学習内容の定着状況がよくなく本校の大きな課題である。環境については、安全推進委員会や安全点検、そして、即対応することで充実を図っている。今後も生徒会の活動と連携して、学校全体で取り組んでいく。働きやすい職場づくりに関しては、ここでの数値ではないものの在校時間80時間超を0を今年度1月まで、達成できており、45時間超の職員も減少している。

6 学校関係者評価

○学力向上については、昔からの課題であり、今後も継続していかねばならない。
○ルールやマナー・挨拶の指導については、子どもたちにとって、将来、大切なことなので根気強く指導をしていた。また、地域での子どもたちへの挨拶は、一声添えている。このことも大切と指摘していただいた。
○家庭学習については、食育と同様に、家庭の教育力の低下が影響しているのではないかと。今後も保護者への発信が必要だとアドバイスをいただいた。
○職場環境については、働きやすい職場づくりに努めてほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学力向上については、研究指定「学校の活性化」の一つの柱として、授業改善やICTの活用、昼休み・放課後の学習会、夏季休業中の補充授業等様々な取組を行ってきた。今後も、アセス等の調査結果も参考にしながら、全職員でさらなる策を協議し、クロームブックの活用など、継続して家庭との連携をさらに強化することで向上を図っていききたい。
○不登校生徒や特別な支援を要する生徒に対しては、保護者と相談しながら積極的に外部機関との連携を図っていく。
○教育相談といじめ防止の職員の20%の差の原因は？、との質問があったが、いじめについては組織的な対応ができている点、悩み相談については、昼休みは放課後などの時間的な余裕がないのが差になっているのではと思われる。
○職場環境については、教室、保健室、職員室等の環境整備や校舎の補修や不要物の廃棄等を行った。今後も設備や備品等、教職員からの声を多く聞き取りさらなる向上につなげていきたい。
○毎週水曜日の定時退庁・部活動休養日も定着し、教職員の勤務時間の軽減につながっている。また、校務分掌の見直しを継続して行っていく。できることから働き方の改善を行っていく。
○学力向上、行動力・表現力の向上、家庭学習の定着、基本的な生活習慣の定着、食育等、本校の課題は、家庭とのかわりが深く、情報の発信と共有、そして、連携した取組が必要である。今後は、子どもの健やかな成長のために、学校・家庭・地域がより協力・連携できる体制づくりを行っていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。